

フィルターによるカビ抑制の重要性

東洋産業だより

Vol. 186
2019年7月号

暑くてじめじめし、カビが発生しやすい季節になりました。

カビが発生するための条件として、水分、栄養、温度、酸素、場所が挙げられます。この中でも水分は重要で、一部の例外を除き、大部分のカビは湿度が高いと生えやすくなります。

身近なところでカビが発生しやすい場所として、エアコンが挙げられます。エアコンには、冷媒管や熱交換器という温かい空気を冷やす部分があり、冷房運転中、この部分は空気中に含まれていた水分が結露し、カビが発生しやすいところとす（図1）。

エアコンで発生するカビの種類の中には、食品等で発生するとカビ毒を産生させるものや、人の体内（呼吸器）で増殖し、肺真菌症（※）の原因となるものも知られており、健康維持の観点からも無視できません。また、エアコンは、発生したカビ類を飛散させてしまう恐れもあります。さらに、カビは菌食性昆虫類の発生源となります。

エアコンの中におけるカビ類の発生源は様々であり、好温性カビ類（37〜50度で発育するカビ）においては、フィルターに溜まった埃から検出されることが多く、2015年秋に大阪府などの一般住宅のエアコンのフィルターに付着した埃を調査した結果、約61%から好温性カビ類が検出されたという研究成果が報告されています（浜田，2016）。エアコン内に埃が溜まると故障の原因になるだけでなく、水分も溜まりやすくなり、湿度が上昇することによってカビ類の発生に好適な状況となります。

このような問題の対策として、エアフィルターとカットフィルターは空調機等の吸込み口のプレフィルターとして利用することができます（図2）。そのため、エアコンに埃が入るのを防ぎ、抗菌加工もしてあるため、

カビ類の発生や繁殖を抑制することができます。きれいな空気環境を保持するために役立つ商品です。この機会に導入をご検討ください。

参考文献

浜田信夫（2016）エアコンの好温性カビ汚染とその対策。環境管理技術34巻：53-61。



図2. 吸込み口に使用したエアフィルター

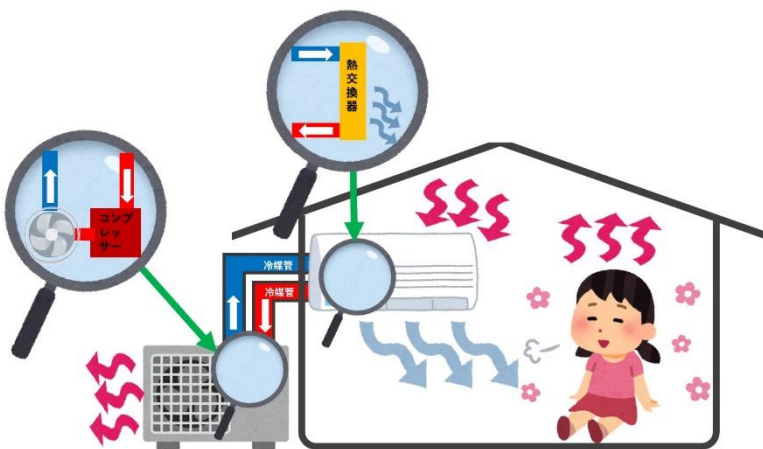


図1. エアコンの一般的な構造

今月の豆知識：文化にかかわりがある昆虫類

蛾と聞いてどんなイメージを思い浮かべますか？蛾は幼虫が農作物を摂食する害虫というイメージや、カイコガのように絹糸を吐き、衣料や健康食品の材料となる産業昆虫というイメージなどがあり、同じ昆虫でも複数のイメージを思い浮かべるといえます。今回は娯楽として扱われる昆虫類を紹介します。

日本では鳴く虫として知られるコオロギは、中国ではその雄をケンカさせる闘蟋（とうしつ）という楽しみに用いられ、これは唐の時代から続いている伝統行事であるとされます。これはもともと賭け事として始まり、体重や体格などによって対戦相手を決めるというボクシングなどの格闘技に似た側面を有する競技として行われています。また、闘犬や闘牛のように、試合で使うコオロギは大切にされ、様々な工夫をして強いコオロギを育て上げる人もいます。かつて強いコオロギの所有者は巨万の富を築いたといわれており、現在でも闘蟋は熱狂的に行われているそうです。

上記のような競技をタイではヒメカプトというカプトムシの雄を用いて行います。また、昆虫類ではありませんが、日本ではクモどうしを戦わせたり、クモがハエを狩るスピードを競ったりするものもあります。害虫や益虫という観点だけでなく、国や地域によって昆虫類の扱われ方もずいぶん違うものです。



東洋産業株式会社

本社 岡山市北区新屋敷町3-19-120

TEL 086-2241-8080

FAX 086-241-8094

拠点 大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島
高松・松山・金沢

www.to-yo-s.co.jp

(バックナンバー掲載中)